

内科

非アルコール性脂肪性肝疾患と腸内細菌

近年、ウイルス肝炎は抗ウイルス薬の進歩により克服されつつある一方、非アルコール性脂肪性肝疾患は世界的に急増しています。非飲酒者において、脂肪肝に加え慢性炎症による線維化を来し、肝硬変から肝がんに至る可能性のある病態で、その原因としては腸炎や絶食、小腸内の細菌異常増殖などが挙げられます。腸管内

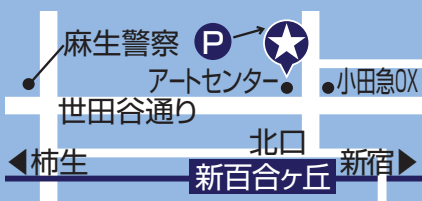
に多くの菌が存在していても、通常は腸管壁の防御機構のために菌や毒素は血管内に吸収されませんが、細菌異常増殖により腸管防御機構が破綻すると、腸内細菌由来のリポ多糖類などが肝に流入し、その毒素は肝星細胞を活性化して、肝内の線維化を促進します。さらに、高脂肪食は肝臓内での毒素に対する感受性を上昇させ、炎症の悪化から発がんのリスクを増加させます。それに対し、腸内細菌が食物繊維から産生する短鎖脂肪酸は、糖代謝の改善など有益な影響をもたらします。



福本 学

内科

新百合山手福本内科



☎044-955-8877
麻生区万福寺6-7-2
メディカルモリノビル2F
<http://www.fukumotonaika.jp/>